

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No.3
		平成28年6月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048-471-1062
		児童数6月1日現在 577名

「アクティブ・ラーニング」

『西向く士』・・・ いったい、何のことかご存知ですか。

1年間12月のうち30日以下の月（子どもたちには小の月と言っています）を覚えやすく語呂合わせしたものです。2、4、6、9、11をそれぞれに、し、む、く、さむらい（さむらいは11の漢字の形が士に見える）と読んで覚えます。一度覚えてしまえば、これは私で実証済みですが一生忘れないと思います。ところが子どもたちに聞いてみますと意外と大の月と小の月の区別が難しいようです。規則性からいうとひと月ごと交互に大の月小の月が来るように見えますが、7月と8月が連続しているのが曲者です。ここで混乱してしまうようです。小学校の学習では、将来の学習にとってその基礎基本となる学力（これを基礎的な知識や技能と呼んでいます）が、まず必要です。大の月と小の月の区別などもそうしたものの一つといえるでしょう。楽しく覚えていくということが大切です。

先日、理科の授業を見ていたときのことで。その日は2つの実験をする学習でした。まず、先生は「吸った空気とはき出した息とでは、何が違うのか」と興味関心を持たせながら子どもたちに問いかけていきました。前の時間までの学習で、吸った空気には、酸素と、窒素と、二酸化炭素がごく僅かあることは知っていますので、その上で、はき出した空気とは何が違うのか、予想を立てて意見を出し合います。聞いていると“なるほど”という意見も出ます。酸素が減って二酸化炭素が増えるのではないだろうかという予想だけが正解ではありません。「体の中に入るのだから温度が変わります。」といった意見も先生の出した問いかけには合っていますからこれも予想として正解です。中には、「臭いが・・・」

校長 可知 良之

といった意見まで出てきますが、ユニークな意見も丁寧に取り上げます。このような話し合いを通して最終的には実験で確かめたい酸素の量と二酸化炭素の量の変化を調べる実験に導いていきました。基礎的な学力を活用して得られる学力（これを課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力と呼んでいます）を伸ばす授業で、子どもたちは意欲的に授業に取り組んでいる実にいい授業でした。きっと、理科の授業が好きになることでしょう。

ちまたでは、「アクティブ・ラーニング」という言葉が盛んに使われるようになりました。アクティブとは活動的な、ラーニングとは学習という意味ですので、そのまま訳すと活動的な学習ということになります。受け身中心の聞いて覚えるだけの大学の授業（かつての小中学校の授業もこれに近いものでした）の改善から出てきたそうです。小学校でもこれからの時代を生きる子どもたちに必要な力として、自分で課題を見つけて解決方法を探っていくたり、そのためにいろいろな人と話をしたり、自分の持っている知識を眠らせておくのではなくフルに活用し応用を利かせるといった、高い学びの姿が必要になっています。時にはお家の方への質問といった活動もあるかもしれません。どうぞ、そのようなときには子どもたちが自ら課題が解決できるように（頭の中がアクティブになるように）解決のヒントを出してあげてください。きっと喜んで学習に取り組むことでしょう。

学校便りは学校ホームページでも

公開しています。

<http://www.shiki3syo.ed.jp/>

